

夢の卵★育成事業

この事業は、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊さんの「子どもたちには『夢の卵』を持ち続けてほしい」とのメッセージにちなんで企画されました。子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらふこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16年度から実施しており、今年で14回目となりました。

4月中旬から5月にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、「将来の夢（＝夢の卵）」を書いた作文を募集し、その中から選ばれた4名の児童生徒が、各分野の第一人者に短期入門をしました。また、より多くの子どもたちの夢を応援するため、次点となった作品を佳作として表彰しています。

小学生の部（応募数1,568作品）

子どもたちの健康と笑顔を守り 明るい未来を支える小児科医になりたい

小矢部市立石動小学校6年 井上 萌々子 さん

自分が過去に診察していただいた小児科の先生への憧れから、医師という職業に興味を持ち、将来は自らの手で子どもたちを元気にして、地域の発展に貢献したいという気持ちを持って、富山大学医学部小児科学教室に入門しました。



体験記
より

今回の入門では、小児科医の「子どもを第一に守る」という使命感を感じることができました。また、この貴重な経験が無駄にしないように、夢にむかってがんばっていきたいです。



聴診器で赤ちゃんの心音を聴きました。



赤ちゃんの救命救急の練習です。



ナチュラリストの活動について教えていただきました。



火山ガス対策ステーションでモニターを見せてもらいました。

自然保護官になりたい

立山町立利田小学校5年 大島 小百合 さん

自然が大好きで、それを守り続けたいけれども、人間による環境破壊のため、多様な生物が生きにくくなっている現状を変えたいという強い気持ちを持って、立山自然保護官事務所に入門しました。



体験記
より

立山の安全と自然は、自然保護官をはじめ、たくさんの人によって守られていることが分かりました。また、身近な自然を守るためには、美しい自然を「見て伝えること」が大事だと教わりました。これからは、多くの人に自然の大切さを知ってもらい、みんなで自然を守っていかたいと思いました。将来は、自然保護官になりたいという気持ちがより強くなりました。